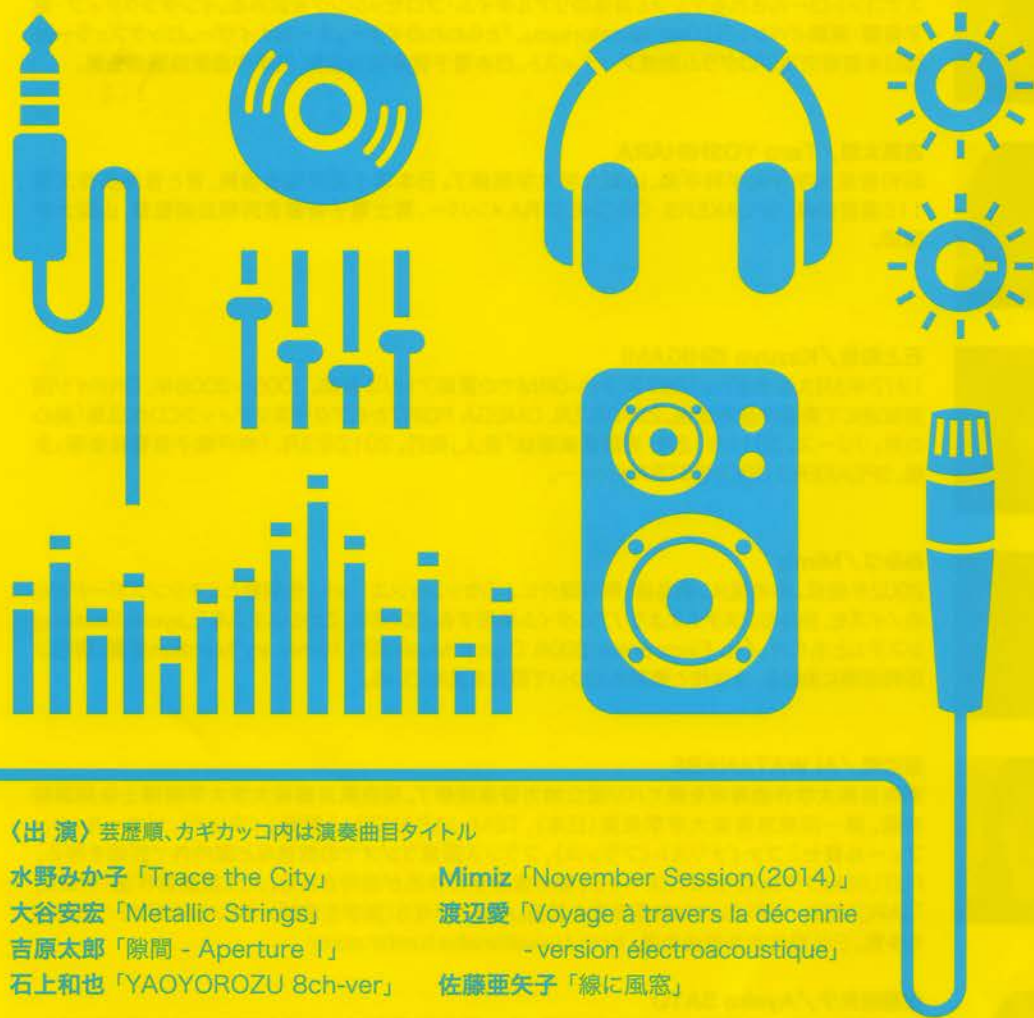


# 電子音楽なう!

vol.4 in 名古屋



〈出演〉芸歴順、カギカッコ内は演奏曲目タイトル

水野みか子「Trace the City」

Mimiz「November Session(2014)」

大谷安宏「Metallic Strings」

渡辺愛「Voyage à travers la décennie

吉原太郎「隙間 - Aperture I」

- version électroacoustique」

石上和也「YAOYOROZU 8ch-ver」

佐藤亜矢子「線に風窓」

2014.11.22(土) 開場 18:30  
開演 19:00

会場: KD Japón 料金: ¥2,000 (+1 Drink Order)

「電子音楽なう!」は電子音楽作曲家たちの今をお伝えするライブイベントです。vol.4では名古屋を会場に、幅広い世代の作曲家たちを取り上げ、それぞれの世代にとっての電子音楽に触れていきます。テクノロジーの進歩と歩みを共にする電子音楽が、今を生きる私たちにどう響くのか。ぜひお立ち会いください。

# 電子音楽なう! vol.4 in 名古屋

## 出演者プロフィール



### 水野みか子 / Mikako MIZUNO

作曲と音楽学の分野で活動展開。作品は、ブルジュイMEB、アルス・ポエティカ音楽祭、ヴェネチア国際音楽祭、Unyazi音楽祭、Musicacoustica、CERPS、ISEA、ISCM、GEDOK、ACMP等の国際的催しをはじめ、世界各地で上演されている。2011-13年には、環太平洋地域〜東京〜名古屋を高速音声通信で結ぶネットワーク・コンサートを実現。名古屋市立大学芸術工学部芸術工学研究科教授。映像出演：杜川リントロウ



### 大谷安宏 / Yasuhiro OTANI

作曲家、ギタリスト。ギターを拡張した独特な響き、リズムと密度が絡み合う電子音響、タッチ・デバイスでコントロールされるマシンと身体のリアルタイム・プロセッシングを試みる。インタラクティブ・電子音響・実験イベント「U:Gen laboratory」、「とらわれのギター」オーガナイザー。ロックフェラー財団日米芸術交流プログラム助成アーティスト。日本電子音楽協会会員、日本作曲家協議会会員。



### 吉原太郎 / Taro YOSHIHARA

昭和音楽大学作曲学科卒業、山梨大学大学院修了。日本電子音楽協会会員、音と音楽創作工房116運営委員、SPEAKERS ORCHESTRAメンバー、富士電子音響芸術祭芸術監督、山梨大学講師。



### 石上和也 / Kazuya ISHIGAMI

1972年3月大阪生まれ。1997年、INA-GRMでの夏期アトリエ参加。2005〜2008年、DRドイツ国営放送にて委嘱作品等放送。2010年2月、OMEGA POINTからアコースティックCD作品集「発心の兆」リリース。2012年12月、実験音楽雑誌「音人」発行。2012年3月、「神戸電子音響音楽祭」主催。SPEAKERS ORCHESTRAメンバー。



### みみづ / Mimiz

2002年結成。鈴木悦久、福島諭、飛谷謙介によるセッションユニット。生楽器とミキシングボードからのノイズを、独自のシステムによりリアルタイム処理する。2006年、このシステムを「Layerd Session」システムと名付け、Ars Electronica 2006 Digital Music部門 Honorary Mention受賞。現在は即興演奏における、身体性と構築性について研究を進めている。



### 渡辺愛 / Ai WATANABE

東京音楽大学作曲専攻を経てパリ国立地方音楽院修了。現在東京藝術大学大学院博士後期課程在籍。第一回東京音楽大学学長賞(日本)、TEM・JAPAN2011受賞(イタリア)、ピエール・シェフェール賞セミファイナリスト(フランス)、フランス国営ラジオでの放送など国内外で評価を得る。FUTURA(フランス)やNIT(スペイン)等の音楽祭に作品が招待される。入江悠監督作品「行路2」「JAPONICA VIRUS」では映画音楽を担当。ACANTHES(奨学生参加)・IRCAMなどアトリエ参加も多数。日仏現代音楽協会会員。http://aiwatanabe.tumblr.com/



### 佐藤亜矢子 / Ayako SATO

東京藝術大学大学院博士後期課程在籍。主に電子音響音楽の作曲と研究を行う。FUTURA、WOCMAT、NYCEMF、SMC、ICMC、ISSTC、ISMIR等の国際学会や音楽祭で作品上演。国際電子音響音楽ヤング・コンポーザーズ・アワード2012第三位(台湾)、Destellos Competition 2013佳作(アルゼンチン)、プレスク・リヤン賞2013第三位(フランス)、東京藝術大学大学院アカンサス音楽賞2014受賞。http://asiajaco.com

# K・D Japon

〈会場〉KD Japon  
〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目12-7  
〈主催〉日本電子音楽協会  
〈協力〉富士電子音響芸術祭、KD Japon  
〈お問合せ〉日本電子音楽協会  
info-jsem@jsem.sakura.ne.jp



● JR中央線 / 鶴舞駅北口より高架沿いに北上(千種) 徒歩3分  
● 地下鉄鶴舞線 / 鶴舞駅3番出口より徒歩7分  
※専用駐車場はございません。

電子音楽なう!

vol.4 in 名古屋



サウンドシステムデザイン / 吉原 太郎

フライヤーデザイン / 飛谷 梢

スタッフ / 小楠 翔, 村橋 歩音, 小島 優希子, 太田 仁美

主催 / 日本電子音楽協会

機材協力 / FUJI acousmatic music festival

企画 / 鈴木 悦久

2014. 11. 22 KD Japón

出演

Mimiz “ November Session 2014 ”

石上 和也 “ YAOYOROZU 8ch-ver ”

渡辺 愛 “ Voyage à travers la décennie - version électroacoustique ”

大谷 安宏 “ Metallic Strings ”

佐藤 亜矢子 “ 線に風窓 ”

水野 みか子 “ Trace the City ”

吉原 太郎 “ 隙間 - Aperture I ”

## プログラムノート

### Mimiz “November Session 2014”

・ Satoshi Fukushima / Laptop, Max/MSP ・ Kensuke Tobitani / Guitar, Mixing Board ・ Yoshihisa Suzuki / Percussion, Mixing Board  
即興。構築、身体、解体、再構築。

### 石上 和也 “YAOYOROZU 8ch-ver”

この作品は、  
八百万の神々への奉納であり  
生きとし生けるものへの礼讃であり  
そして自分自身への戒めでもある。  
2014年11月

### 渡辺 愛 “Voyage à travers la décennie - version électroacoustique”

十年の旅 ～電子音響のための～ (初演)

本作は、11月9日に東京で行われた「町井亜衣フルートリサイタル」における委嘱新作であるフルート独奏のための「十年の旅 Voyage à travers la décennie」をソースに、電子音響作品として発展させたものである。もともとフルートとの混合作品という構想があったが、今回はひとまずメディアに固定した作品に落ち着いた。十年という意味の単語が独立して存在することを知ったのは、特撮テレビドラマ「仮面ライダーディケイド」による。平成仮面ライダーシリーズ10周年記念作品として放送された「ディケイド」への個人的な親愛の念と本作との内容的な関連は全く無いが、先述のリサイタルが町井亜衣さんのデビュー十周年を記念するものであったため、「ディケイド (décennie)」というタイトルが自然と浮かんだ。

録音された音が何を表象するかという問題にずっと囚われている。器楽作品の一部を組み込みつつフィールド・レコーディングの音を配置して作品を編みながら、結局録音での作曲は絶えざる実験とそれに抗う方法との間で揺れ動くしかないのか…とあてどのない旅を繰り返している。録音の拠り所のなさは、故郷を持たず異世界を旅し続けることを宿命づけられた仮面ライダー・ディケイドと似ているかもしれない。

### 大谷 安宏 “Metallic Strings”

大谷安宏  
Yasuhiro Otani  
<http://kajirurecords.tumblr.com>

### 佐藤 亜矢子 “線に風窓”

或る「線」を巡り、2年前から毎年レコーダー片手に旅を続けている。旅の道すがら、あるいは辿り着いた先々で録音した音のみを素材にし、フィクスト・メディアの電子音響音楽作品を作曲。それらは個人的な記憶の回顧録のようなものである。旅先の風景が朧げに見え隠れするような断片を象徴的に挿入し、しかし具体的な行き先を決して聴衆には告げない。他の誰でもない「私の旅」の轍のようなもの。《線に風窓》はシリーズ第4作（厳密には5作目）となる。今年の線の旅は、皆既月食の夕刻。静かな場所だった。踏切の向こうに大きく丸い月が浮かぶ。鳥居を潜ると日没を予感させるひんやりした風が頬をかすめた。同じ列車に乗り合わせた人々が皆、車窓に顔を押し当てて黒い空を眺め、月が食べられていくのを見守った。「私」の旅が「あなた」や「誰か」も眺める同じ赤い月の下で共有される妄想。少しだけのびた線をまた振り返る感覚。

### 水野 みか子 “Trace the City”

まちを歩くのは楽しい。よく知っているまちでも、歩いていけば毎日発見がある。知らないまちならなおさらだ。道端の花、丁寧にお世話されている鉢植え、きれいに並べて干された洗濯物、人々の暮らし。もっと都心に行けば、華やかなショッピング街や、いかにも美味しそうな食堂が並んでいる。食べ物も、身につける物も、土地が変われば少しずつ異なる。異国に行けば、衣食住ともにめずらしいものばかり。歩け、歩け、歩けば楽しい。まちが楽しい。まちの形も見えてくる。「まちをトレースする」という簡単な発想から音楽を創ってみた。視覚情報を音の情報へとマッピングするための規則は極めて単純だが、視覚と音情報を、バランスはかって調整しながら形ある作品へと仕上げていくプロセスにスリルを感じた。

### 吉原 太郎 “隙間 - Aperture I”

都市の片隅に存在を消すかのように忘れ去られた路地裏。  
雲の隙間から大地に向けて差し込む光。  
かつては子供達の声が響き渡ったであろう山奥の廃校。廃村となった幻の村。廃墟が静かに佇む集落。  
何かから置き去りにされてしまったそのような場所を探す旅を続けている。  
そこで何かを見つけるのではなく、ただ感じるためだけに。